

2018 原文

(3) 5. 07 (b) を改める 下線部を削除

投手は各回のはじめに登板する際、あるいは他の投手を救援する際には、捕手を相手に8球を超えない準備投球をすることは許される。この間プレーは停止される。

各リーグは、その独自の判断で、準備投球の数を8球以下に制限してもさしつかえない。このような準備投球は、いずれの場合も、1分間を超えてはならない。

(以下省略)

(4) 5. 09 (c) (1) 【原注】 を改める
(前段省略)

…したがって、塁の後方からスタートして、走りながら塁に触れて次塁へ進むとするいわゆるフライングスタートは、正規なリタッチの方法ではない。

(5) 5. 10 (Q) 項目名を変更する

マウンドに行く回数

(6) 5. 10 (Q) 【原注】 (前段省略：4段め末尾)

リリーフ投手は、審判員の適宜な判断において、8球またはそれ以上の準備投球が許される。(以下省略)

(7) 5. 10 (m) および【注】を追加

※ 2018年度版には記載無し

2019 改定文

(3) 5. 07 (b) を次のように改める 二重下線部に改正

投手は各回のはじめに登板する際、あるいは他の投手を救援する際には、捕手を相手に準備投球をすることは許される。この間プレーは停止される。

各リーグは、その独自の判断で、準備投球の数や時間を制限してもさしつかえない。

(以下省略)

(4) 5. 09 (c) (1) 【原注】 を次のように改める 二重下線部を追加
(前段省略)

…したがって、塁の後方からスタートして、走りながら塁に触れて次塁へ進むとするいわゆるフライングスタートは、正規なリタッチの方法ではない。このような走者は、アピールがあればアウトになる。

(5) 5. 10 (Q) 項目名を次のように変更する 二重下線部に改正

監督・コーチがマウンドに行ける回数

(6) 5. 10 (Q) 【原注】(前段省略：4段め末尾) 二重下線部に改正

リリーフ投手は、審判員の適宜な判断において、必要な準備投球が許される。(以下省略)

(7) 5. 10 (m) および【注】を追加

※ 5.10(m)の追加の項目(1)~(3)・【注】の詳細は別紙のとおり